

2017年都市対抗野球に向かって

NO CHANCE WITHOUT CHALLENGE

[挑戦無き者にチャンス無し]

公式戦第二戦社会人・東京六大学対抗戦は3月25日神宮球場で午後2時試合開始されました。先攻明治安田生命(以後明治安田)1回表三者凡退、東京大学(以降東大)も三者凡退。両チーム明治安田大久保投手・東大宮台投手の両エースが順調なスタートと投手戦を思わせる滑り出し。

2回はお互い先頭打者ヒットで出塁するも後続が立たれ得点なし。3回明治安田は1死後9番打者として大久保投手が始めてバッターボックスに入りその初球を右中間を抜く二塁打で出塁、チャンスを造り1番吉田選手四球で1死2・1塁と2番新城選手に期待するも2ボール2ストライクからアウトコースへ逃げるスライダーを追いかけ空振りの三振で2死なおも続くチャンスに3番道端選手セカンドゴロでほしいチャンスを潰した。その裏簡単に2死するも2番バッターに1ボール1ストライクの3球目のインコース高め(失投)をライトスタンドへ運ばれ先取点を許す。

以後両投手好投6回まで試合が進む。7回から明治安田は三宮投手がリリース。

7回明治安田は1死後7番宮川選手がセンター前クリーンヒット8番増野選手に替えて代打泉澤選手3ボール0ストライクから高めのボールを打ち詰まり気味の一塁ファールフライで2死となる。9番三宮選手に替えて代打木田選手が代打で登場するもセカンドゴロに打ち取られる。

7回裏明治安田は3番目投手として鈴木投手が登板先頭打者を四球、次打者犠牲バンド1死2塁、2塁ランナー3塁盗塁を許したあと三遊間への打球でホームへ2点目を奪う。この回ノーヒットで1点献上。

7回の明治安田の拙い攻守のミスで勝敗を分けた。特に泉澤選手の3ボールからの強振はただけでない。打ってはいけないとは言わないが高めのボールを強振し詰まらせてファールフライでアウトは頂けない。鈴木投手も1死2塁でけん制するでもなく淡々に投げているから見す見す3塁へ盗塁されるもう少し緊張感を持った投球を望む。

東京都大会・大学対抗戦の二試合を観戦して感じることは打者は大振り過ぎてアッパースイング、センター返しのコンパクトなスイングを心がけてください。下位チーム投手を打てても都市対抗出場を目指すチームの投手を打ち込むことは困難であることを肝に刻んでほしい。

東大の宮台投手は東京六大学投手陣でも好投手の一人である。教訓にして欲しい。

四球	0	0	1	0	0	1	0	1	1	4
安打	0	1	1	1	0	0	1	0	0	4
明治安田生命	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
回数	1	2	3	4	5	6	7	8	9	
東京大学	0	0	1	0	0	0	1	0	X	1
四球	0	1	0	1	0	2	1	1		6
安打	0	1	1	0	0	1	0	1		4

明治安田生命 大久保・三宮・鈴木・木村——道端・森川

東京大学 宮台——森田